

Shinji Ohmaki Interface of Being

大卷伸嗣

真空のゆらぎ

2023.11.1 [Wed.] — 12.25 [Mon.]
水 月

休館日 | 毎週火曜日 Closed | Tuesdays

国立新美術館 | 企画展示室2E(東京・六本木)

The National Art Center, Tokyo

Special Exhibition Gallery 2E

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

7-22-2 Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-8558

大卷伸嗣《Gravity and Grace》(部分)、2017年
Shinji Ohmaki, *Gravity and Grace* (detail), 2017

[開館時間]

10:00–18:00

*毎週金・土曜日は20:00まで

*入場は閉館の30分前まで

[主催]

国立新美術館

独立行政法人日本芸術文化振興会
文化庁

[協力]

株式会社アートフロントギャラリー

マインドセットアートセンター

株式会社中川ケミカル

[観覧料]

無料

[お問い合わせ]

050-5541-8600(ハローダイヤル)

[美術館HP]

<https://www.nact.jp>

[Opening hours]

10:00–18:00

*10:00–20:00 on Fridays and Saturdays

*Last admission 30 minutes before closing

[Organized by]

The National Art Center, Tokyo

Japan Arts Council

Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

[With the cooperation of]

Art Front Gallery

Mind Set Art Center

Nakagawa Chemical Inc.

[Admission]

Free

[Inquiries]

(+81) 47-316-2772 (Hello Dial)

[Website]

<https://www.nact.jp/english>

新国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

日本博 JAPAN
CULTURAL
EXPO 2.0

令和5年度日本博2.0事業(委託型)

大巻伸嗣 | 真空のゆらぎ

Shinji Ohmaki: Interface of Being

Press
Release
〇I

はじめに

大巻伸嗣(1971年岐阜県生、神奈川県在住)は、「存在するとはいかなることか」という問いを掲げ、身体感覚を揺さぶるような大規模なインスタレーションを創り出してきた現代美術家です。大巻は、そうしたスケールの大きな創作を、日本はもとより、アジアやヨーロッパなど世界各国で発表し、高い評価を得てきました。また、地域を活性化するアート・プロジェクトから舞台芸術まで、多くの人々と協働して空間を変容させるさまざまな現場でも比類のない資質を発揮しています。

大巻の空間に包み込まれた私たちは、この世界における我が身の存在に、新たな視点を投げかけることになります。空間に痕跡を残すことで自らの身体を実感し、また、闇に包まれたり、強烈な光に照らされたりすることで、身体だけでなく、意識や感覚に、内省的に向き合うことを促されるのです。

大巻は、現代社会がどのような歴史を経て今に至り、現在どのような問題を抱えているかを深く考察し、それをもとにインスタレーションの着想を得てきました。また、光と闇を重要な要素とする大巻の空間は、太陽のリズムとともに在るこの世界を象徴するかのような始原的な感覚を湛えています。この始原性とも関わるのが、大巻が好んで用いてきた繊細かつ濃厚な装飾的な造形です。人間は、自然を抽象化した文様を身近なものとすることで、自然に寄り添って生きてきたからです。大巻のインスタレーションは、現代社会に対する優れた批評である一方、人間に普遍的にそなわる根源的な造形志向を色濃く反映しているのです。

本展覧会は、国立新美術館で最大の、天井高8m、2000m²にも及ぶ展示室をダイナミックに使って開催されます。この広大な空間でなければ展示できないインスタレーションは、観客の身体的な感覚と強く響き合い、細分化した世界に生きる私たちが失った総合的な生の感覚を喚起することでしょう。展示には、映像や音響、そして詩も用いられるほか、会場内でのパフォーマンスも予定されています。大巻が創り出す、現代の総合芸術をお楽しみいただければ幸いです。

大巻伸嗣(おおまき・しんじ)

1971年岐阜県生まれ。現在、神奈川県を拠点に制作。「存在」とは何かをテーマに大巻は、環境や他者といった外界、記憶や意識などの内界、そしてその境界にある身体の問題を探究してきました。大巻が生み出した空間で私たちは、外界と内界の相互作用や、時間と空間におけるその揺らぎを、身体的な感覚とともに多義的に経験します。

近年の主な個展に、「The Depth of Light」(2023年、A4美術館、成都)、「地平線のゆくえ」(2023年、弘前れんが倉庫美術館)、「存在のざわめき」(2020年、関渡美術館、台北)、「存在の証明」(2012年、箱根彫刻の森美術館)など。「あいちトリエンナーレ」(2016年、愛知)ほか国内外の数多くの国際展にも参加してきた大巻は、近年、「Rain」(2023年、愛知県芸術劇場/新国立劇場)などの舞台芸術でも活躍しています。



大巻伸嗣ポートレート

Pic by paul barbera / where they create

大巻伸嗣 | 真空のゆらぎ Shinji Ohmaki: Interface of Being

Press
Release
02

展覧会の見どころ

1. 大巻の精神的深化を示すインスタレーション

本展覧会では、2016年に始まったシリーズ〈Gravity and Grace〉の最新バージョンのほか、私たちはなぜ生きるかという根源的な問いに基づく新作も発表される予定です。

2011年の東日本大震災とそれに付随して起きた福島原発事故は、大巻にも大きな衝撃を与えました。〈Gravity and Grace〉で大巻は、原子力という諸刃の剣を抱える私たちの社会を批評しています。また、近年、言語学の様々な領域の研究者にインタビューを重ねて、私たちの意識と切り離せない「言語」をリサーチするなかで、「生きるとはいかなることか」を考察してきました。その一つの現れとして、新型コロナウイルス感染拡大の時期に制作された、新作の映像インスタレーションが発表される予定です。本展覧会は、3.11とパンデミックに挟まれた約10年の間に大巻が探求してきた、文明と自然、生と死への考察の深化を示しています。



Gravity and Grace



Gravity and Grace

Photo courtesy of A4 Art Museum

シリーズ〈Gravity and Grace〉

本展覧会は、2016年に初めて発表された〈Gravity and Grace〉シリーズの最新バージョンから始まります。さまざまな動植物からなる文様を施された大きな壺から放たれる強烈な光と、それが生み出す影。ここで大巻は、原子力が引き起こした未曾有の人災に、核分裂反応の爆発的なエネルギーの象徴とも言える、最大84万ルーメンにも達する強烈な光で応答しています。大巻は、この魅惑的な光と、そこに文字通り吸い寄せられる人々の姿を通じて、エネルギーに過度に依存した今日の社会を批評しています。作品のタイトルは、フランスの哲学者シモーヌ・ヴェイユの箴言集『重力と恩寵』に由来します。ヴェイユによれば、重力によって縛られた私たちは、真空を受け容れることにより、神から恩寵を得られるといいます。大巻は、この大きな光と影のインスタレーションをもとにしたフォトグラムの制作も予定しています。

大卷伸嗣 | 真空のゆらぎ
Shinji Ohmaki: Interface of Being

Press
Release
03



大巻伸嗣 | 真空のゆらぎ Shinji Ohmaki: Interface of Being

Press
Release
04

2. 巨大なインスタレーションと繊細なドローイング

本展覧会は、天井高8m、総面積2000m²の展示室で開催されます。大巻は、その空間的な広がりを最大限に生かした3つの大きなインスタレーションを構想しています。大巻が創り出す空間はしばしば、身体を凌駕する大きさの効果ともあいまって、そこに身を置く者に深い内省を促すような崇高な感覚を与えます。本展覧会には、この圧倒的な空間を創出するために大巻が無数に描き残してきたドローイングも展示されます。大巻はドローイングを通じて、その場に漂う気配をつかみとり、空間の広がりや運動、光と影の交差などを確かめてきたのです。ダイナミックなインスタレーションと繊細なドローイングの対比も、本展覧会の見どころのひとつです。



Rustle of Existence
Photo courtesy of A4 Art Museum

3. 他分野とのコラボレーション

空間における身体、また、他者との身体的関係に深い関心を寄せる大巻は、近年、「Rain」（2023年、愛知県芸術劇場、新国立劇場ほか）の舞台美術を手掛けるなど、演劇の分野にも活躍の幅を広げています。そもそも大巻のインスタレーションは、光と闇のコントラストや、舞台のような設えの空間に観者を導き入れる点で、演劇を強く想起させます。その空間に足を踏み入れる私たちは、観客であると同時に、大巻が立ち上げた世界の一員としての演者のようでもあります。展覧会会期中には、会場内でパフォーマンスも行う予定です。

また、大巻が近年、言語に新たな着想を得ていることから、詩人の関口涼子とのコラボレーションも予定しています。関口の言葉が大巻のイメージの世界と並走することにより、そこに新たな深度が生み出されることでしょう。

大卷伸嗣 | 真空のゆらぎ

Shinji Ohmaki: Interface of Being

Press
Release
05

展覧会概要

大卷伸嗣 Interface of Being 真空のゆらぎ

2023年11月1日(水)–12月25日(月)

国立新美術館 企画展示室2E (東京・六本木)

[休館日] 毎週火曜日

[開館時間] 10:00–18:00 ※毎週金・土曜日は20:00まで
※入場は閉館の30分前まで

[主催] 国立新美術館
独立行政法人日本芸術文化振興会
文化庁

[協力] 株式会社アートフロントギャラリー
マインドセットアートセンター
株式会社中川ケミカル

新国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

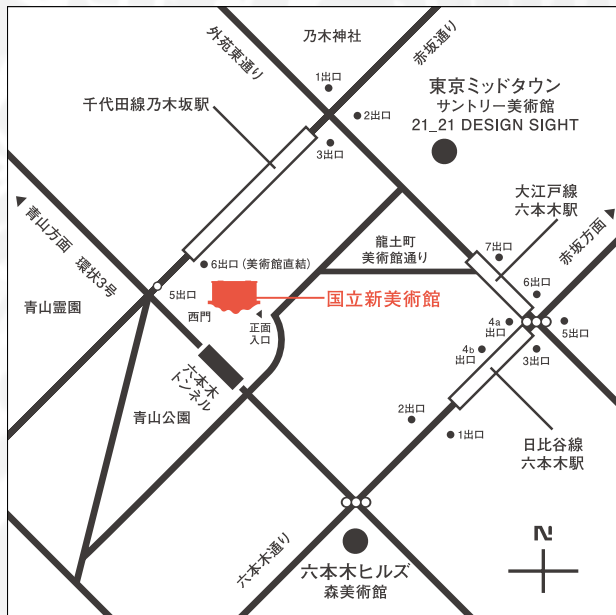
日本博 JAPAN CULTURAL EXPO 2.0
令和5年度日本博2.0事業(委託型)

[観覧料] 無料

[お問い合わせ] 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

[美術館HP] <https://www.nact.jp>

会期中の関連イベントについては、美術館HPでお知らせいたします。



〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

アクセス：東京メトロ千代田線 乃木坂駅

青山霊園方面改札6出口(美術館直結)

東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a出口から徒歩約5分

都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7出口から徒歩約4分

※美術館に駐車場はございません。

報道関係のお問合せ

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

国立新美術館 広報室

担当：オエトリ、井口、本多

Tel: 03-6812-9925 | Fax: 03-3405-2531

pr@nact.jp